

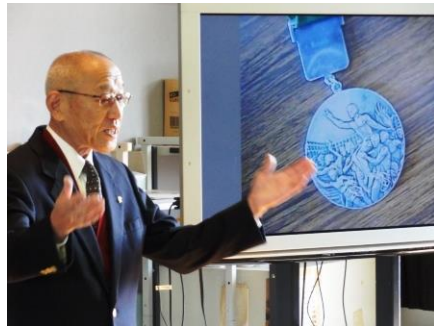
平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

【 北九州市 】

1 実践テーマ	【 I V】
2 実施対象者	上津役小学校 1～6学年 22クラス 619名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（社会科、総合的な学習の時間） ② 行事名（マラソン大会）
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第6学年社会学習において1964年に実施された東京オリンピックを教材に取り上げ、オリンピック精神である平和でよりよい社会の実現がオリンピックの目的であることについて理解する。 ○ メキシコオリンピック銀メダリストである君原健二さんの講話を通して努力することの大切さを学ぶとともに、マラソン大会で1～6年生と一緒に走っていただくことで走ることの楽しさについて体感する。 ○ リオデジャネイロパラリンピックに出場した車椅子テニス選手の二條実穂さんから講話で二條さんが信条として大切にしていることを聞き、児童の自己の生き方に生かす。また、車椅子リレーや車椅子テニスを体験することで障害者スポーツの理解を図る。
5 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第6学年 社会科単元「平和で豊かな暮らしを目指して」において、東京オリンピックを取り上げて授業を行った。 1964年に実施された東京オリンピックを教材に取り上げた。戦後19年で国を復興させるとともに、国際社会に復帰し認められたことで東京オリンピックを開催できたことを調べるとともに、聖火の経由地をたどることや最終聖火ランナーが原爆投下直後に生まれた人が選ばれたことを考え合わせることで日本が平和な国家を目指すことを学んだ。そして、平和でよりよい社会の実現がオリンピックの目的であることについて考えた。 ○ 第6学年 総合的な学習の時間「みらいの自分を見つけよう 夢に向かって」で君原健二さんから講話をしていただいた。 まず、道徳の時間に小学校時代のイチロー選手と野球選手としての活躍の様子を知り、将来の夢についての関心を高める。 その後、君原健二さんの話を聞き、今の自分とこれからの自分の在り方について考えを深めた。



君原健二さんの講話の様子

事後に、様々な職業について調べ、多くの職業人から職業の仕事内容や自分が大切にしていることなどの話を聞いた。そして、自分の就きたい職業やこれから生活するうえで大切にしたい考えをまとめて児童相互で交流を行った。

○ 全学年 マラソン大会（学校行事）

学年に応じて校地内とその周辺を走るマラソンコースを設定した。そして、各学年の体育学習の時間にマラソン大会の練習を10時間前後位置づけた。マラソン大会の練習期間に、毎日、15分休みにマラソンタイムを設定した。マラソンタイムでは、全学年児童が運動場に出て、低・中・高学年に応じて決められたコースを走った。

マラソン大会当日は、君原健二さんに来ていただき、開会式で君原健二さんから児童に激励の言葉をいただいた。そして、学年ごとにマラソン大会を実施し、各学年の児童と一緒に走っていただいた。マラソン大会の最後に走った6年児童には、走った後でしめくくりの話をしていただき、児童のがんばりをほめていただいた。



マラソン大会での君原健二さん

○ 第4、6学年 総合的な学習の時間「車いすテニス選手との交流を通して」

最初に、二條実穂さんから講話をしていただいた。講話では、事前に児童からの質問事項をあらかじめ二條実穂に伝えており、質問事項を踏まえながらご自身の経験に基づいた話をしていただいた。

その後、二條実穂さんとともに、児童が車いすリレーの



児童に講話をする二条実穂さん

体験や車いすテニス体験を行った。



車いすリレーをする児童



車いすテニスをする二条実穂さん

事後に、児童は講話や体験を振り返り、二条実穂さんへお礼状を書く学習を行った。

6 主な成果

- 第6学年 社会科単元「平和で豊かな暮らしを目指して」においては、1964年に実施された東京オリンピックを教材に取り上げた。
児童は、戦後19年ほどで、国を復興させるとともに、国際社会に復帰し認められたことで、東京オリンピックを開催できたことを調べた。その後、聖火の経由地をたどることや最終聖火ランナーが原爆投下直後に生まれた人が選ばれたことを考え合わせることで日本が平和な国家を目指すことを学んだ。そして、平和でよりよい社会の実現がオリンピックの目的であることについて考えることができた。
- 第6学年 総合的な学習の時間「みらいの自分を見つけよう 夢に向かって」では、児童は、君原健二さんから「一番印象的だったのは、小さな努力を積み重ねたり、うまくいかなかったらチャンスで解決策を探し、課題を見つけるといことです」や『「うまくいかないのは成長のチャンス」』『小さな努力を積み重ねるのは無駄ではない』の二つの言葉が心に残りました」「夢をもつことの素晴らしさ、夢は無限大だ」など、今後の自分の生き方に生かせることを学べた。
- 全学年 マラソン大会（学校行事）では、君原健二さんと一緒に走ることで走る意欲を高めるとともに、走ることの楽しさを体感することができた。また、最後に、「マラソンは、誰にも頼ることができない運動競技であり、自分が頑張ることでゴールが近づいてくる。頑張った自分を誇りに思ってください。」ということを見聞に話していただき、マラソンで頑張った児童を価値づけていただいた。
- 第4、6学年 総合的な学習の時間「車いすテニス選手との交流を通して」では、車いすリレーを体験することで車いすを操作することの難しさを体感することができた。また、車いすについて理解を深めることができた。
さらに、車いすテニスを見学したり体験したりすることで車いすテニスの競技を知ることができた。
二条実穂さんへお礼状から、「心の中の好きを大切に」「自分の夢を宣言する」「無理と絶対に言わない」ことを多くの児童が学んだことが伺えた。

7実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 総合的な学習の時間やマラソン大会といった学校行事で講師を活用した。事前にどのような講師であるのか経歴や人物像などを児童に知らせて、児童が学習に臨めるようにした。 ○ 講師の講話は、キャリア教育の視点を大切に、学習活動に位置付けた。
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度は、年度当初に教育課程に位置付けているものと位置付けていないものがあった。そのため、位置付けていないものについては、学年の希望を取って実施した。来年度は、年度当初に「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」を教育課程にきちんと位置付け、実施する。 ○ オリンピック出場経験者やパラリンピック出場経験者は、生き方が大変魅力的である。そして、講話内容も貴重な体験に基づいたものであり、児童の心を惹きつける。したがって、キャリア教育の視点から学習内容を充実させることを十分検討したい。また、特別の教科「道徳」での活用も十分考えられる。
9来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ○ 来年度もマラソン大会の学校行事やキャリア教育(総合的な学習の時間)で本事業を継続実施する予定である。